

キャベツセル苗への塩水灌水による収穫の齊一化

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

野菜 - キャベツ - 育苗

2 担当者

常盤秀夫・水野由美子

3 要旨

秋冬作キャベツでは、夏季高温時の乾燥した圃場への定植となることが多く、しかも機械定植用のセル苗は葉齢が小さく土容量も少ないため、定植後の活着や初期生育が悪く収穫時の重量がばらつくことが問題である。

そこで、セル苗の育苗期間中において、定植1週間前から0.3%の食塩水を灌水し、苗の耐干性を高め、その苗を高温乾燥下で定植した場合の活着や初期生育及び収穫時期の齊一性を向上させることができた。

- (1) キャベツ育苗中に定植1週間前から食塩水を灌水すると苗の耐干性が高まるが、その際、耐干性を高め、かつ、苗の生育への影響や葉の黄化程度を少なくするためには、食塩水濃度は0.3%で十分である。
また、灌水方法は頭上灌水でも可能だが、底面給水がのほうが苗への悪影響が少ない(図1)。
- (2) 高温乾燥条件下で定植した場合、育苗時に食塩水を灌水した区は、通常の育苗と比較して初期生育が優れ、生育のばらつきが小さく、さらに、収穫日のばらつきが小さい。(図2)。
- (3) 冬どり晩生品種においては、効果が現れにくい場合がある。

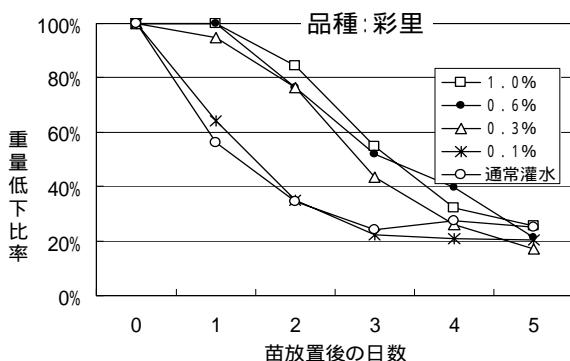


図1 キャベツ苗食塩水灌水濃度と放置苗の重量低下
*各区の定植適期苗を無灌水で放置した場合の重量低下を示した
*値は灌水打ちきり時の重量(生重)を100とした比率
*塩水灌水時期と調査時期
　播種～定植適期1週間前は、全区通常灌水
　定植適期1週間前～定植適期は、設定濃度で塩水灌水
　定植適期に一切の灌水を打ちきり、調査を開始
*2008年8月9日放置開始

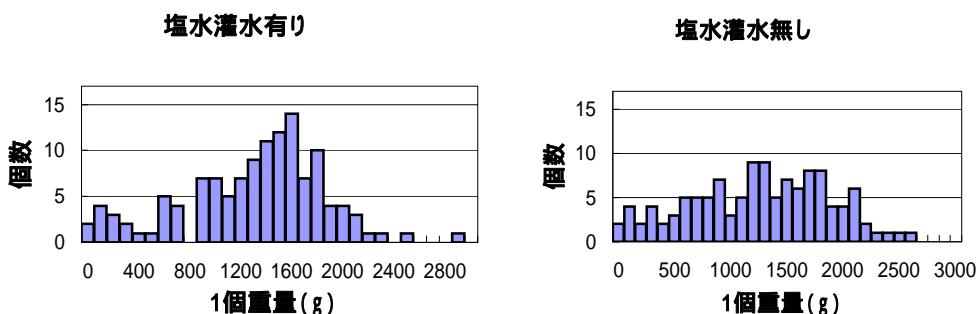


図2 育苗時の塩水灌水の有無と重量別収穫個数
(塩水濃度0.3%、品種「彩里」、2008/8/7定植)

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)